

■小原古邨 日本画家、浮世絵師、版画家。欧米人がこぞって蒐集、日本では忘れられていたが、最近の展覧会で一気に注目。

おぼらこそん

西南戦争・1877= 金沢で、加賀藩に仕える本多家家臣で祐筆だった小原為則の三男に生まれる。母はそと。本名小原又雄。英文表記では“Obara”であるが、実際には“おぼら”。

明治14年政変1881= 4歳：

新体詩抄・1882= 5歳：父が死去。この年、アーネスト・フェノロサが来日、

内閣発足・1885= 8歳：この年、小林清親の“光線画”と呼ばれる版画の版元大黒屋4代目松木平吉が5代目に家督を譲渡。

帝国大学始・1886= 9歳：

東京へ出、花鳥画を得意にしていた鈴木華邨に師事して日本画を習得、“古邨”と号するとともに、フェノロサの指導を受けて、欧米から見た日本画の視点も知る。

帝国憲法発布1889=12歳：大黒屋は、この年創刊された{国華}の木版挿絵もが担当するなど、その技術には定評があった。

帝国議会始・1890=13歳：この年、離日するフェノロサは、その直前に来日したラファディオ・ハーンに会い、浮世絵を見せて、真の理解者を得たと喜んだという。

日清戦争始・1894=17歳：

日清戦争終・1895=18歳：

白馬会・1896=19歳：この年に始まった日本絵画協会の展覧会共進会に出品し始めたらしく、

Bushidou・1899=22歳：\*第7回日本絵画協会・第2回日本美術院連合絵画共進会展で「寒月」で3等褒状を得たことで名が知られ、

ビアノ国産化・1900=23歳：第9回共進会展で「花鳥獣」、第10回共進会展で「からすうり」、

田中正造直訴1901=24歳：第11回共進会展で「嵐」、第12回共進会展で「花鳥百種」と、2等褒状を受け続けるが、ほかの活動を見出すべく、初の木版画の「花鳥画帖」を小林文七から出版。

日比谷公園・1903=26歳：境野アイと結婚。高橋鐵太郎著「海洋審美論」に挿絵を描き、その序文で、鐵太郎が前途有望と評価されるまでになっていたが、

日露戦争始・1904=27歳：日露戦争を描いた大判錦絵の三枚続の戦争画も出版。

日露戦争終・1905=28歳：\*この頃、版元の大黒屋5代目松木平吉と協力し、主としてヨーロッパ向けの輸出用の色摺り木版画による花鳥画を発表、自らの魅力が開花、欧米に有力なコレクターが多く出て行くことになる。

やがて、秋山滑稽堂、西宮与作からも花鳥画を版行するようになり、この頃の作品として、滑稽堂「雁」「樹上の鷺」、松木平吉「雛鳥」が知られる。この間、2男3女をもうけるが、長男と三女は夭折、

明治天皇没・1912=35歳：松木平吉の元から多くの作品を刊行してきたが、この年、“祥邨”と改号して、肉筆画に専念し始め、

大正政変・1913=36歳：妻と協議離婚している。

原敬首相暗殺1921=44歳：

水平社結成・1922=45歳：

護憲三派圧勝1924=47歳：この年、ニューヨークで刊行されたハーンの遺著「Japan an Attempt at Interpretation」の表紙に「雪の柳に鳥」が用いられるなど、評価は確固としたものになっている。

円本時代始・1926=49歳：渡邊庄三郎版の作品には“祥邨”の号を用いたまま、「雁」など、また、酒井好古堂と川口商会の共同出版では“豊邨”と号して、「オカメインコ」などの新版画を制作し始め、

満州事変・1931=54歳：とくに、\*この年版元渡邊庄三郎から出した「鴨九羽」「猫と金魚」「波に千鳥」「鯉」「芦に鳴」などの花鳥版画は、彫師、摺師の卓越した職人技が生み出した見事な木版画で、海外のコレクターの目を引き、{Times}誌に作品が掲載されるほどの人気を集め、

五一五事件・1932=55歳：渡邊庄三郎が開催した伊東深水、川瀬巴水ら多くの新版画の作家を集めた{第3回現代創作木版画展覧会}にも、「金魚」「波に千鳥」など多くの作品を出品、

国際連盟脱退1933=56歳：\*ポーランドのワルシャワで開催された国際版画展覧会でも、「石榴に鸚鵡」をはじめ、大評判になったが、日本が国際的に非難されるようになってきたり、還暦も間近になって、筆をおき、

芥川直木賞始1935=58歳：この年、日本化薬の前身日本火薬製造の3代目社長に原安三郎が就任したが、彼が日本における飛び抜けたコレクターであったことが、最近になって知られることになった。

日中戦争始・1937=60歳：

大政翼賛会・1940=63歳：

日米開戦・1941=64歳：

敗戦・1945=68歳：豊島区雑司ヶ谷の自宅で、\_没した。

生涯の版画の作品数は、およそ550件といわれる。